

日本鳥学会2017年度大会 公開シンポジウム

本気で根絶, 本気で再生 奄美・沖縄・小笠原

生態学者vs外来生物



講演者

巨悠哉

(森林総合研究所)

小高信彦

(森林総合研究所)

2017.9.18. 決戦
於 筑波大学

長嶺隆

(どうぶつたちの病院沖縄)

川上和人

(森林総合研究所)

主催 日本鳥学会

日本鳥学会2017年度大会

本気で根絶、本気で再生 奄美・沖縄・小笠原

公開シンポジウム

外来生物の管理方法、教えます！

外来生物は鳥類保全上の大きな課題です。特に島では問題が深刻化しており、多くの駆除事業が行われています。

しかし、各地で駆除を経験した結果、技術的限界、合意形成の難しさ、複雑な生物間相互作用などに直面し、「駆除で解決」という単純なものではないことがわかってきました。

そこで、奄美、沖縄、小笠原の事例を紹介し、議論を行います。外来生物は社会的な問題であり、行政や専門家のみでは解決できません。情報共有と課題解決のため、学生や一般の方も含め多様な立場の方の参加をお待ちしております。

講演プログラム

コーディネーター：川上和人・小高信彦

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 激動の奄美：大詰めのマングース対策、回復する希少種、それを食べたノネコ | 亘 悠哉 |
| 2 | 回復する森林生態系：沖縄島北部やんばる地域の固有鳥類と外来種マングース対策 | 小高信彦 |
| 3 | やんばるの森の脅威 ノイヌ、ノネコ問題
～終わりのなき戦いを終わらせるために～ | 長嶺 隆 |
| 4 | 海洋島小笠原の憂鬱：対策は1種2種では足りません
川上和人・堀越和夫（小笠原自然文化研究所） | |

生態学者 vs 外来生物

森林総合研究所・主任研究員



亘 悠哉 Yuya Watari

奄美群島を中心に、沖縄や小笠原、ニューカレドニアなど、各地の島で外来生物管理の研究を行う。情熱と冷静をあわせ持ち、現場での実践からモデル分析まで俯瞰的に統べる新進気鋭の研究者だ。

森林総合研究所九州支所・主任研究員



小高信彦 Nobuhiko Kotaka

沖縄やんばるにおいてノグチゲラを中心に約20年にわたり研究を続け、その特殊な進化を解明する。環境省のレンジャーとしての経歴も持ち、地元から寄せられる厚い信頼は何よりの宝だ。

どうぶつたちの病院 沖縄・理事長



長嶺 隆 Takashi Nagamine

ヤンバルクイナを脅かす絶滅時計の針を押し戻すべく、地元沖縄で奔走する。交通事故対策、飼い猫の適正飼育、一般への啓蒙活動。やんばるにこの人ありと称えられる戦う獣医師である。

森林総合研究所・主任研究員



川上和人 Kazuto Kawakami

人生の半分を小笠原での研究に捧げてきた。噴火で名高い西之島や原生環境の南硫黄島など、無人島を舞台に進化の解明と保全の実践を試みる。文才を武器とした普及啓発で本領を発揮する。

2017.9.18.

月曜
祝日

主催

日本鳥学会

The Ornithological Society of Japan

場所：春日講堂 〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2
(筑波大学 筑波キャンパス 春日地区) TXつくば駅から徒歩10分

9:30-12:00

終了予定

お問い合わせ

日本鳥学会2017年度大会事務局

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

国立科学博物館 動物研究部 気付

E-mail: osj2017@kahaku.go.jp (このアドレスは問い合わせ専用です)

本公開シンポジウムは、平成29年度日本学術振興会科学研究費補助金(17HP0021)の助成を受けています。

入場無料